



ぼらんていあ通信

7月号
通巻 No.464

発行 / NPO法人 相模原ボランティア協会 2020年7月21日
連絡所 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館・中央ボランティアセンター内
TEL/FAX: 042-759-7982 Eメール: sagamiva@feel.ocn.ne.jp HPアドレス: http://sagamiva.info/

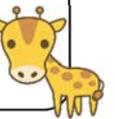


「あい」のご利用者さん、みんな素敵な笑顔で集合！

オジマシマ



「ヤングさん」の対応ぶりに好感を抱く！
ウェルネス2階にある「レストランあい」を訪問



ボランティア活動をしている人なら、あじさい会館横ウェルネス2階にあるレストラン「あい」を利用したことがあるでしょう。そこで、ここがどのようにつながっているのか、管理者の九嶋園子さんに伺いました。

★開店したのはいつですか？
「平成5年（1993年）7月あじさい会館1階で障害者福祉的就労協力事業所「喫茶あい」としてスタートし、平成12年にウェルネスさがみはらの2階へ移転。メニューも変えて『ふれあいヘルシーレストランあい』をオープン、平成26年には就労継続支

援A型事業所「レストランあい」となり今日に至っています。

★このような方が働いているのですか？

「知的障害を持つ10名（定員）の方が働いています。就労継続支援A型事業所ですから、働くみなさんと雇用契約をします。社会人としてあるべき姿を、日々の通勤、身だしなみ、言葉遣い、仕事に対する姿勢を学びながら「あい」の仕事に携わっています。私たちはみなさんを「ヤングさん」と呼んでいます。働くことへの意欲も意識も高く、自立した生活を送っています。」

★仕事での楽しみや嬉しいことなど感想を伺えますか？

「休憩時間にみんなとおしゃべりするの
が楽しいです。お客さんと接して、ありがとうと言われると、嬉しくやりがいを感じ
るという声が多いです。また洗いやフロア掃除を早くも早くやるのがいい、仕事
の目標も立っています。」

★職員さんは何人くらいいますか？

「12名います。ヤングさんの業務支援の
他、生活面の支援等も担っています。調理、シ
打ちや配達担当の手配などの業務をして
います。」

★コロナ自粛時はどうでしたのですか？

「行政関係からの注文が激減しましたが、
今までのメニューで売切れていたお弁当

を「来店のお客様
にお出しできるよ
うになり、お店が
賑わうようになった
ました。勿論、椅子
の配置、消毒の
徹底など感染予防
防止には万全を期
しております。」

「余暇活動としての計画している行事が縮小や中止となり、残念に思っています。」

★運営母体は一般社団法人「相模原市手をつなぐ育成会」とありますが、どのような会なのですか？

「昨年『創立60周年記念誌』を発行しましたので歴史は古いです。そして流れをあげてみます。」

・昭和34年 特殊学級の先生方を中心に「相模原市手をつなぐ親の会」設立

・昭和48年 親の手で自主運営開始

・昭和49年～57年 地域作業所約10事業所開設、平成元年には、そのほとんどが自主運営や成長を遂げる

・平成8年 「社団法人相模原市手をつなぐ育成会」となる

・平成25年 一般社団法人に移行

★ヘルシーレストランとは何ですか？
「市健康増進課が推進している健康への志
援店に加盟しています。食塩相当量、野菜量、カロリーなどという規定をクリアした健康メニューを提供するのが条件です。」



「レストランあい」の玄関と店内



次ページに続く

8月の記念日は？

小倉義男

8月8日、地球歌の日です。

日付は広島が被爆した8月6日と長崎が被爆した8月9日の間で平和への願いを込める意味と、丸を重ねた形の数字の8が2つ続く日から丸い地球をイメージし、平和を願い歌い続けている歌手の呼びかけにより生まれたそうです。国境や人種を越えて人々が歌い合う日。地球の歌を世界に広げたいですね。

小倉画



★食べる側は安心ですが、規定があるという大変では。
「お味噌汁が別売になったり、デザートの種類などの影響でメニューの種類が減り品数が少なくなりました。材料についても制約があるので財政的に厳しいこともあります」
最後に九嶋さんは、「あじさい会館や市役所等での集まりの際は、テリバリーも承りますので、ご利用ください。」「ヤングさん」が心を込めてお届けします。」「お料理を保持していただくときのヤングさんたちの「おしゃべり」の言葉も、きびきびといいねいな対応が印象に残りました。「レストランあい」を大いに利用しましょう！
お忙しい中、取材にご協力へありがとうございました。感謝します。
あしがらひいさんです。 (山崎)



傾聴の今

コロナ禍の傾聴活動

松原 俊



5月末に緊急事態が解除された、6月からやっと傾聴活動が再開された。自分は、利用者4名、月5回の活動を実施していくが、当然、我々の対応はマスクをし、手の消毒を行い、時間は、本来1時間の所30分程度としたが利用者によっては1時間強にもなった。活動が1巡したが、ほとんどの方がマスクをしておらず、閉鎖空間であったり、距離が確保できなかったりで、よい環境での傾聴活動とは言えなかった。

7月13日時点では、感染者が再び増加し、第2波到来かと騒がしくなった。そんな中での活動再開となったが、今後、傾聴活動をどのように行つか考えなければならぬ。

傾聴は、利用者の言葉、表情、動作、間の取り方、沈黙など、対面して聞いていくので、今、はやりリモートワークなどでは難しいと思いつ、設備・費用的にも問題がある。

そのため、お互いの感染を防ぐ手段を講じての対応となるが、我々もマスクとフェイスシールドを着用して、利用者にも同様の着用を徹底し、現在、3人の活動を基本としているが2名に減らし、なるべく密を避けたいが、狭い空間での活動は非常に難しい。

自分は、利用者から「待っていたよ」「また、待っているよ」と笑顔で言ってもらい、それを励みに活動を行っている。しかし、それは、お互いに健康な状態での活動である。利用者、我々共高齢者がほとんどで、新型コロナに感染すれば、重症化するリスクが非常に高い。そのため、国及び県の緊急事態再発令(行動自粛)などを待たずに、活動の縮小や中止も検討する必要があるのではないかな。



会員のひろば

会員の皆さまへ、趣味や活動など、自由にごばさってください。コーナーです。

傾聴ボランティアのひろば

おの かまこ 小野 和子



緊急事態宣言解除となり徐々に日常を取り戻しつつもあります。事務局再開と成った今一ご挨拶皆様「コロナ感染にお気を付け下さい」。

昨年9月『傾聴ボランティア』に入会致しました小野和子と申します。「コロナ禍の中、活動はお休みが続いておりますが、昨年・今年とご利用者様のお宅を二人の先輩と訪問致しました。長いお休みが続いておりますのでご利用者様の様子が気になることです。

昨年8月〜9月(4回)に開かれた傾聴ボランティア養成講座で、傾聴の基本的な事柄を荒木乳根子教授に学びました。10の月再開する予定ですが、前回の活動で自身の反省も有りますので学んだ事をチェックしなければと思う次第で御座います。そして荒木先生の講座はこれから活動するための傾聴ボランティアだけでなく、人としての関わり方を教えて頂いた思いでした。

最後に私が傾聴ボランティア活動を始めたきっかけですが、数年前になりますが母が入所していた特別養護老人ホームに入所されてる皆さんと会話を楽しくしている方を見かけました。『傾聴ボランティア活動員』の方々であると知りました。

当時の母は認知症がかなり進み意思の疎通も難しく成った状況でした。ある日ホームに訪れた傾聴

理事のつぶさき

羽田 彌



私は人工透析をして24年になります。透析者の患者会である相模原市腎友会の代表を務めております。今日は、この腎友会関連連での経緯についてつぶさきです。それは、小学生・中学生に人工透析とは何か、大災害時の障がい者に対する心構えなどを講話する話です。

この事業はお隣の大和市腎友会が「ふれあい体験交流会」と名付けて大和市との協働事業として行っているものです。ある学年のクラス別に講話を行う為、スタッフが足りない場合に相模原市腎友会の私が借りに出される訳です。私はこの事業に平成22年から昨年まで、10回以上参加しています。

講話は総合学習の時間、45分が当てられます。まず、説明を25分から30分行い、残りの時間は質問を受けます。私は、①腎臓の働き、②透析患者とは、③透析医療とは、④東日本大震災の時の透析患者はどうか、⑤障がい者の大震災、⑥皆さんへのお願いを配布のシジメに添った話をします。

「透析患者とは」では、透析患者は外見では分かりませんが、透析に十分な血液を確保する為に腕の静脈と動脈を繋ぎ静脈を太くした状態を見せ、かち触らせてみます。一部の生徒は怖がって触りませんが殆どの生徒は触って血液が勢いよく流れている様子を知らずして触ります。

「東日本大震災の時の透析患者はどうか」では、震災が発生した同日21日付けの朝日新聞のほぼ全面に掲載された、「透析お願ひします」「患者」の命を

守る闘い」「故郷を離れて北海道へ」の見出しの記事を見せ、自衛隊の飛行機で北海道へ、或いはバスを連ねて東京、千葉方面へ移動して透析を受けたことを説明します。

「皆さんへお願ひ」では、大震災時の「自助」「共助」「公助」の話をして、震災が発生した際に、近所の障がい者はどうしたかなど「気遣い、思いやり、家族の方こそこの話を聞いて下さい」と、その為には、日頃、近所などという障がい者が居るかを家族で話し合っておく下地とお願ひをします。また、ヘルプマークの話もします。

質問の時間では、活発に質問が出ます。例えば、血液を外に取り出して居て菌が入らないのですか？血液が手の先まで行かないと大変ではありませんか？（腕のこのこで血液を採るだっているのだから）先に行っていないと誤解、腎不全になった原因は何ですか？腎不全は治らないのですか？生まれつき腎不全の人がいますか？透析になった時の気持ちどうの気持ち、透析をした後、疲れると聞きますか？等々。一つ一つ丁寧に応えます。

皆、おしゃべりする人も多く真剣に聞いてくれます。有難うございます。

そして、この講話の時間が終わって次の授業時間で生徒の皆さんは感想文を書いています。その感想文は後日、講師の私たちに送られてきます。因みに昨年11月に行った中学2年生の感想文をいくつかご紹介いたします。「赤いマーク（ヘルプマーク）を見たら席を譲るなよ」「このからい近所を（障がい者）を把握して意識して行く」「地震が来たら近所の人達のことが気がなるよ」「なるよと思った」「自分の健康を改めて考え、障がいを持っている人に対し

ボランティアの方が母にも優しく声を掛けをして下さり...その時の様子ですが、笑顔で話す母の姿を見た時は私自身驚きと同時にボランティアの方への感謝の気持ちでいっぱいでした。この時の感動から私自身も傾聴ボランティア活動をやってみたいと思う様になりました。

9月から傾聴ボランティア活動が再開されると思いますが皆様のご声援とお願ひ致します。

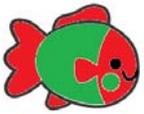


ての気持ちを改めました「腎臓が機能しないのは怖いな」と思った、内部障がいのマーク（ヘルプマーク）を覚えていて、そういう人がいたら助けてあげたいと思った「これからは近所のお年寄りの障がい者を気にかけていきたい」等々。皆さん良く聞いてくれていて理解してくれていると感じ、嬉しくなりました。

相模原市でもこの種の催しが出来ないか考えました。ある市議会議員の計りで市の全中学校の人權・福祉担当の先生方が集まった会議でPRする機会があり、良い催しであると思ってくれた先生が多かったと聞きましたが進展はありませんでした。その後田名中学校の先生方全員にこの催しと透析についての説明会を開催していただきました。何人かの先生からは生徒に聞かせたいという感想文をいただいたのですが実施には至っていません。



ヘルプマーク



ボランティアさん募集！

高齢者施設でのお話し相手

内容 高齢者女性（80歳・要介護3）のお話し相手をお願いします。
 日時 月1回、火曜日の午後1時～1時間程度
 場所 サービス付高齢者住宅ユノトレメゾンさがみ（中央区下九沢67-1）

連絡・問い合わせ先
 相模原ボランティア協会あじさい連絡所
 電話 042(759)7982
 相模原市社協 中央ボランティアセンター
 電話 042(786)6181

理事会報告

7月11日（土）定例理事会（理事の名出席）

一、現状の確認

- ・新型コロナウィルス感染予防対策の経過と現状
- ・あじさい会館 中央ボラセン施設の利用条件

二、報告事項

◆広報委員会・ぼら通部会

- ・委員長は恒藤さん、書記（議事録担当）は植野さん、新委員は吉田さん、小山さんが加わった。

◆広報委員会・わくわく部会

- ・次号の発行は9月19日の予定

◆ハンディキャップ委員会

- ・10号車の代替車両について検討

◆事務局委員会

- ・正会員、HCC利用会員の更新手続きの確認

◆その他

- ・福祉のまごころの推進協議会の役員会、総会は書面審議で実施、第38回市民福祉の集いは中止。
- ・地域福祉推進協議会は書面審議での実施となった。

・ほかほからわめいフェスタは中止して、7月21日本部役員会議で今後の対応を検討する。

三、審議事項

◆新型コロナウイルスの感染予防対策の継続を確認。

◆予算執行状況の確認と検討

- ・活動PRのためのDVD制作について総会企画委員会で検討する予定。

◆家庭転倒防止活動について

- ・方針を明確にする作業を確認した。

（次回理事会 8月8日（土）10時より）



山口尚美画

《今月のイラスト
 ……いつも仲良し》

相模原ボランティア協会 8月の予定

日	時間	内容
8(土)	10:00～	定例理事会
9(日)	10:00～	ハンディキャップ委員会
15(土)	13:00～	事務局委員会
18(火)	13:00～	広報委員会ぼら通部会
24(月)	13:00～	ぼら通8月号印刷
25(火)	13:00～	ぼら通8月号発行

ご寄付をありがとうございました。

事務局閉鎖のためご寄付のお礼が遅くなりましたこととお詫びいたします。
 皆様のご寄付は当協会の運営に有効かつ大切に使用させていただきます。
 <4～6月の寄付者>
 6名の皆様からご寄付をいただきました。
 <4～6月の寄付金>
 総額 27,360円でした。

編集後記

「コロナ禍の中、家において
 どう過ごすか、することは
 色々あるのですが、なかなか
 やる気がわかない。毎日
 感染者数を気にしながらマ
 スク作りをしていました。
 ようやく開館はしたものの、
 部屋はほとんど20～30人
 位なので、これからは15～
 16人程になる。多いグループ
 はどうしたらよいか困りました。
 活動もすっかり変わってしま
 いそう。」 (杉)